

モーダルシフトをテーマに 関西大学寄附講座の一環として物流施設見学会を開催

関西大学寄附講座受講生 33 名が
阪九フェリー・神戸ターミナル及び、JR 貨物・安治川口駅を見学

社団法人日本物流団体連合会は 11 月 21 日(金)に関西大学商学部において現在開講中の寄附講座「物流の変革」の受講学生を対象に物流施設見学会を行ないました。この取り組みは、講座の一環として学生の物流に対する理解をさらに深めることをねらいとし、一昨年に初めて開催して以来、学生・教職員からも好評を博し、3 年連続の開催となりました。

今回の見学会は「モーダルシフト」をテーマに、午後から半日のスケジュールで阪九フェリー(株)神戸ターミナル及び、日本貨物鉄道(株)安治川口駅を見学し、学生、教職員を含め 33 名が参加しました。

午前 12 時に関西大学に集合後、六甲アイランドにある阪九フェリー・神戸ターミナルに到着。ターミナル内にて、同社神戸支店の水戸秀郎 支店長より、施設の概要・特徴・業務内容の説明を受けた後、船尾のランプウェイより実際に停泊中のフェリー「つくし」に乗船し、船内を見学しました。車輻甲板から関係者専用の階段を登り、ブリッジに入ると学生からは驚きの声があがりました。ブリッジでは同社海務部海務課の松本浩文 課長代理や、航海士の方から船舶の操縦方法や航海時に特に注意している点の説明がありました。見学会直前となる 11 月 19 日の寄附講座において、同社米田真一郎 代表取締役社長(日本長距離フェリー協会会長)による講義が行われたため、学生はフェリー輸送の仕組みや同社の事業内容についてより理解を深めることができました。

次に、JR 貨物・安治川口駅に移動し、駅構内を俯瞰することができる駅舎 2 階の会議室より、同社関西支社営業部の酒井洋一 グループリダーより鉄道貨物輸送ならびに同駅の概要説明を受けました。その後、駅構内に出てホームに停車中の電車型貨物列車: スーパーレールカーゴについての説明を受け、実際にトップリフターを用いて 31ft コンテナを列車に積載する実演を見学。さらに、予め構内に用意していた JR 貨物汎用 12ft コンテナを開扉し、コンテナの中に入ることで、学生達はその大きさを実感しました。最後に、バスの車窓から様々なコンテナや貨車の説明を受けながら駅構内を一周して見学会は終了しました。

今回の見学会は、会員企業である日本長距離フェリー協会と JR 貨物の協力を得て行われたものであります。寄附講座においても物流業界にとって今後の重要な動向と紹介されているモーダルシフトの担い手であるフェリー輸送と鉄道貨物輸送を、机上で学だけでなく実際に目の当たりにすることで、モーダルシフトについてより理解を深めることができ有意義な企画であったと思われま

以上

担当:(社)日本物流団体連合会
事務局 新開
Tel 03-3593-0139
Mail shingai@butsuryu.or.jp



阪九フェリー・神戸ターミナルにて
 (写真上)ターミナルにて概要説明
 (写真中)船尾のランプウェイより乗船
 (写真下)ブリッジにおいて航海士の方による
 船舶の航行についての説明

JR 貨物・安治川口駅にて
 (写真上)スーパーレールカーゴへの
 31ft コンテナ積載実演
 (写真中)汎用 12ft コンテナについての説明
 (写真下)参加者がコンテナの大きさを体感